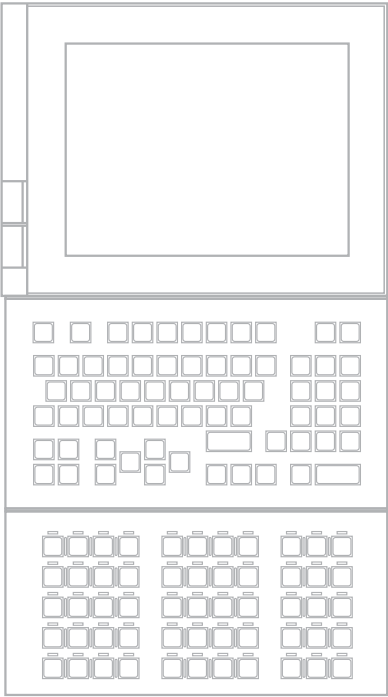
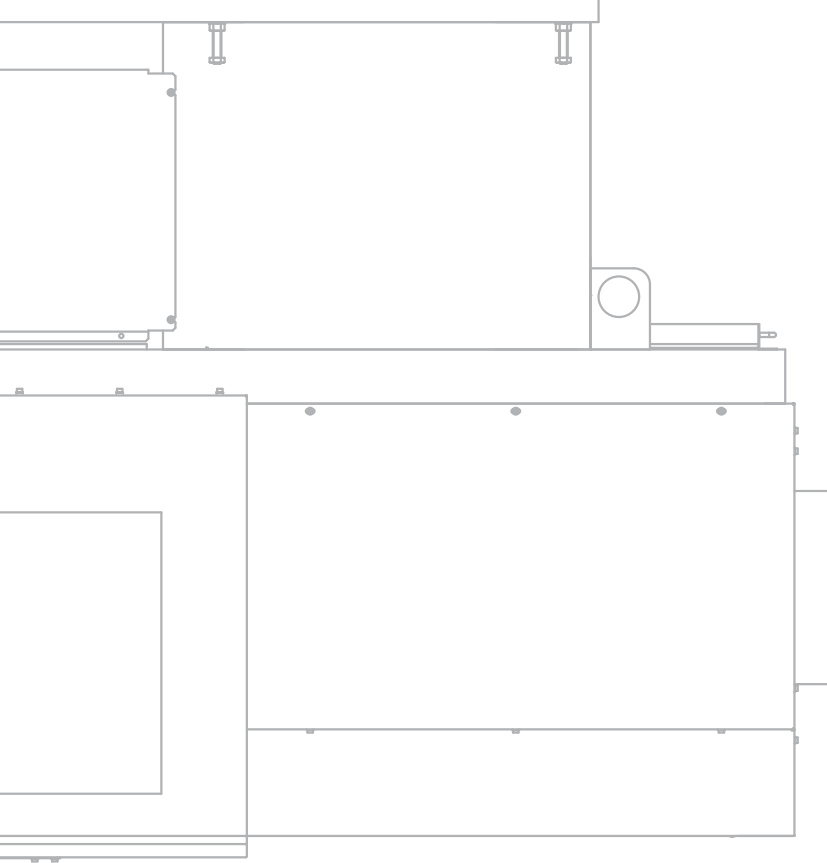
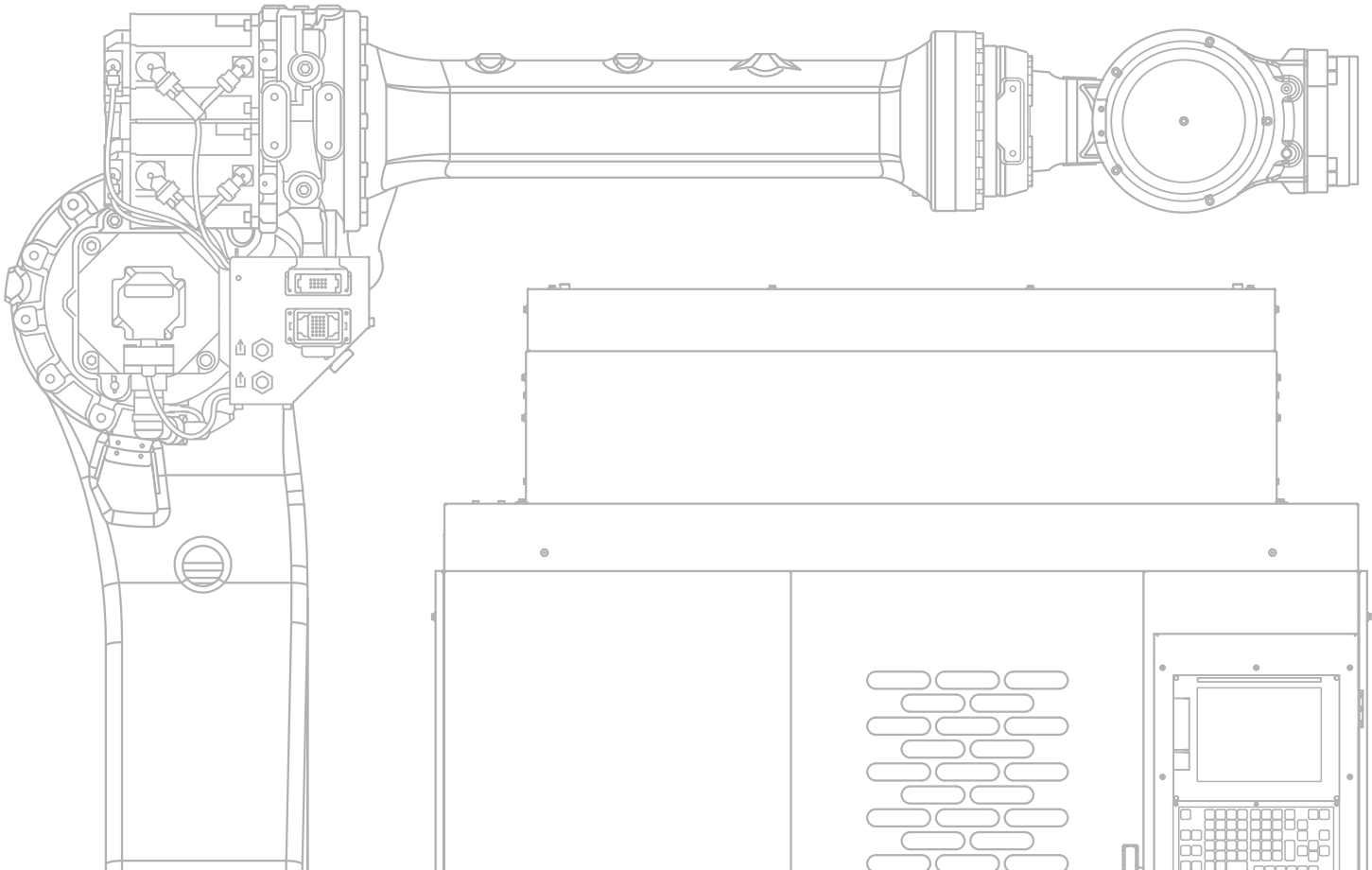


CORPORATE PROFILE



自動化技術で あなたのビジネスの成功を 共に目指す

機械を制御するFA事業と、その基本技術を応用した
ロボット事業とロボマシン事業。3つの事業を通じて、
ファナックは産業のオートメーションの未来に
必要な技術を追求し続けています。

止まらないこと。より滑らかに。より速く。
よりスマートに。静音、省エネも。

自動化を追求することで、絶え間なく変化する
あなたのビジネスをファナックは支え続けます。

ごあいさつ

1955年にコントロールの開発プロジェクトチームが発足し、1956年に日本の民間として初めて工作機械におけるNC(数値制御装置)とサーボ機構の開発に成功して以来、私たちファナックは、一貫して製造業をはじめとする産業のオートメーションを追求してきました。それら基本技術からなるFA(Factory Automation)事業と、その基本技術を応用したロボット事業およびロボマシン事業を展開しています。これからもお客様へ一層の価値を提供すべく、制御、デジタル、IoT、AIなどの最新技術を積極的に開発・適用しており、特に次の点に力を入れています。

- ・「one FANUC」を合言葉に、FA・ロボット・ロボマシンの3事業とサービスが一体となったトータルソリューションの提供、およびグループ一体となった世界のお客様への対応、というファナックならではの強みを最大限活かしています。
- ・ファナックは生産財のサプライヤーであるとの原点に立ち、信頼性を最も重視しています。お客様のダウンタイムを最小にして稼働率向上を図るため、「壊れない」「壊れる前に知らせる」「壊れてもすぐ直せる」ことを商品開発において徹底しています。
- ・世界中のどこでもファナックのグローバルスタンダードに沿った高度な保守サービスを提供すること、お客様が使用し続ける限り保守を続けること、を基本とした「サービスファースト」を実践しています。

私たちは、お客様の事業の自動化と効率化を推進することで、今後も成長が見込まれる産業のオートメーション分野において、信頼される企業であり続けることを目指します。

代表取締役社長 兼 CEO 山口 賢治

ファナックの基本理念

厳密

透明

企業の永続性、健全性は厳密から生まれる。
組織の腐敗、企業の衰退は不透明から始まる。

ビジョン

産業のオートメーション分野において、
無くてはならない価値を世界中に提供し続け、
ステークホルダから信頼される企業であり続けます。

世界の産業を支えるファナックの自動化技術

1955年の創業以来、ファナックは一貫して製造業をはじめとする産業のオートメーションを追求してきました。そうして生み出されたファナック商品が、世界中の現場で稼働し、私たちの生活を支えています。産業のオートメーションは今後まだまだ進化していく分野です。その進化を実現するため、ファナックはこれからも全力で技術を磨いていきます。

基本商品

FA

数値情報で工作機械の動作を制御するCNCや速度と位置を制御するサーボ等、産業のオートメーションを実現する基本商品を扱っています。



工作機械メーカーにより
機械に搭載

応用商品

ロボット

CNCとサーボの基本技術を応用し、アームを自由に制御することで、様々な作業を自動化します。3K(危険、汚い、きつい)作業からの解放による労働環境の改善や、長時間の安定連続生産による商品品質の向上・安定化などに貢献します。また、人と協働で作業するロボットを開発するなど、減少する労働人口を補い、世界中の産業の生産性や稼働率の向上に貢献します。



ロボマシン

CNCとサーボの基本技術を応用した、小型切削加工機(ロボドリル)、電動射出成形機(ロボショット)、ワイヤ放電加工機(ロボカット)を開発しています。加工性能、稼働率、使いやすさの追求により、お客様の生産性向上に貢献します。



生産・物流ラインで働き、
身近な製品の製造などに携わっています



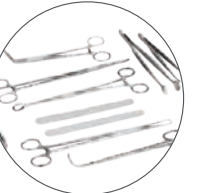
航空宇宙



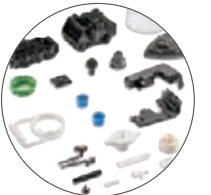
電子機器



食品



医療機器



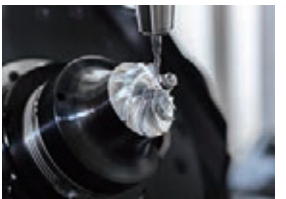
プラスチック部品



自動車



物流



CNCによる5軸加工

高い精度と信頼性を誇るCNCシステムによる制御が、効率的な5軸加工を実現し、複雑な部品の生産を可能にしています。多軸の同時高速駆動、高精度で滑らかな加工を実現する高度な制御技術が、金型、電極の生産に用いられています。



ロボットによる多彩な組立

組立やねじ締め・部品実装・搬送・検査など様々な工程にロボットが導入されています。ファナックでは、小型高速から大型まで幅広いラインアップを揃え、あらゆる工程の自動化を推進しています。



ロボショットによる多材成形

標準的な成形以外にも、インサート成形、オーバーモールド成形といった豊富な射出成形技術と高度な自動化システムで自動車部品の生産に貢献しています。多材成形は、1つの金型で異なる材質の材料を組み合わせる技術で、様々な特性を持つハイブリッド部品の生産を可能にしています。

ファナックの開発体制

信頼性の高さは、お客様の生産性向上や競争力向上にもつながると考えています。
そのためファナックでは、開発の時点から信頼性を念頭に置いて設計しています。

ファナックの開発ポリシー

ファナックは生産財のサプライヤーであるとの原点に立ち、お客様のダウンタイムを最小にして稼働率向上を図るため、「壊れない」「壊れる前に知らせる」「壊れてもすぐ直せる」ことを商品開発において徹底します。

壊れない

壊れる前に知らせる

壊れてもすぐ直せる



開発と製造が密に連携し、高品質な商品を提供する

開発と製造が日常的にコミュニケーションを取っていることはファナックの重要な特長の一つです。これにより、商品を設計する技術者が製造プロセスを熟知することができます。



次世代技術研究所

次世代技術研究所は、数年先に必要となる要素技術を、各研究開発本部から研究員を集めて、one FANUC による部門横断体制で研究・開発しています。



信頼性評価棟

信頼性を高めるための仕組み

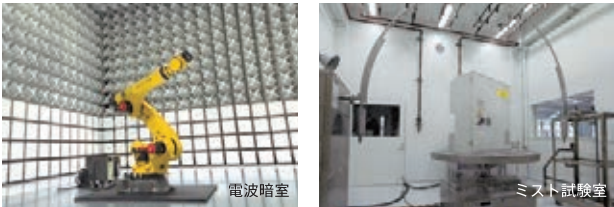
信頼性評価棟は、研究開発における最大の建物です。実際よりも厳しい条件にて評価試験を同時に多数行い、効率的に信頼性の向上を図ります。

商品試験エリア



信頼性評価棟の大部分を占めるこのエリアでは、信頼性の徹底検証のために加速寿命試験を行っています。ばらつきを考慮してサンプル数を増やし、様々な条件で加速寿命試験を実施することで商品の長期信頼性を評価します。

専用試験室



電波暗室・電磁耐性試験室・加振室・ミスト試験室・温度可変室・湿度可変室・限界試験室・騒音測定室・水没試験室・クリーンルーム・精密測定室などの専用試験室があります。

ファナックの生産拠点

ファナックは日本国内で生産を行うことで、開発と製造の一体化を図っています。
またBCP(事業継続計画)の観点から、自然災害などに備え、4拠点にて生産の複線化体制を構築しています。

本社工場 山梨県忍野村

山梨県忍野村にある本社工場群です。緑が豊かな54万坪(178万m²)のファナックの森の中に、多くの工場が点在しています。CNC、サーボアンプ、サーボモータ、ロボット、ロボショット、ロボカットの組立、及び機械加工、プレス、ダイキャスト、塗装を行う工場があります。機械加工の長時間連続無人運転を実現するなど、工場の自動化、ロボット化を積極的に推進しています。



壬生工場 栃木県壬生町

栃木県壬生町の21万坪(70万m²)の敷地に建設されたファナックの最新鋭の工場群です。工場内のすべての機器をネットワークで結合した高度に自動化された工場です。各工程はロボットにより自動化され、自動搬送システムで連結されており、部品加工から組立・試験まで一貫生産を行っています。本社工場と合わせて、CNC、サーボアンプ、サーボモータの生産能力を増強し、安定供給を図っています。また、ロボットコントローラを製造しています。



筑波工場 茨城県筑西市

茨城県筑西市の27万坪(90万m²)の敷地に筑波工場があります。筑波1区は、ロボドリルとロボットの組立を行っています。筑波2区は、ロボドリルとロボットの部品加工と組立、ロボットコントローラの製造をしています。高度にロボット化された設備を駆使し、効率の良い生産を行っています。



筑波1区



筑波2区

隼人工場 鹿児島県霧島市

鹿児島県霧島市の5万坪(17万m²)の敷地に隼人工場があります。高度にロボット化された設備で、サーボモータ用センサを製造しています。



ファナックの工場

多くの工場でロボットを始めとした自社商品を活用することで、高度な自動化を実現しており、効率的に生産を行っています。

CNC工場

本社 壬生

ファナックロボットを多数活用し、従来人手でしか行えなかった複雑な組立作業をロボットで行っています。



サーボモータ工場

本社 壬生

当社の技術を結集した最新のロボット化工場で、部品取出しから組立、試験、梱包までを高度に自動化し、効率の良い生産を行っています。



サーボアンプ工場

本社 壬生

プリント板や放熱フィン、冷却ファンなどの筐体への組み付けから試験まで、ファナックロボットによる一貫した自動化を実現しています。



ロボット工場

本社 筑波

ファナックロボットを多数用いた自動組立システムでは、ロボットがロボットを組み立てています。組み立てられたロボットは、試験スペースに自動搬送され、自動試験を行い、連続運転と検査を行ってから出荷されます。



ロボドリル工場

筑波

工具交換機構などのユニット組立はロボットにより自動で行います。主軸の組立では、作業者に交じて多数の協働ロボットが活躍しています。



ロボショット工場

本社

重量のあるユニットは、作業者が協働ロボットと協力して組立を行っています。組立以外にも防錆油塗付や洗浄作業などにも協働ロボットを活用し、製造を効率化しています。



ロボカット工場

本社

重量のあるユニットは、作業者が協働ロボットと協力して組立を行っています。組立工程や試験工程の進捗をリアルタイムにモニタし、工程に応じて的確な作業指示を行っています。



機械加工工場

本社 筑波

ロボット、ロボドリル、ロボショット、ロボカットの部品を加工しています。ファナックロボットセルを導入し、夜間、週末を含む長時間の無人運転を行っています。工作機械、ロボットの稼働モニタを活用した設備の稼働率向上、精度変化の把握による加工不良の削減を行っています。また、工場環境を維持するため、ミスト量、温度、照度の見える化も行っています。



サーボモータ部品加工工場

本社 壬生

モータ部品の旋盤加工を行っています。素材の加工セルへの搬送、加工機への取り付け・取外しは、自動倉庫とロボットで行います。



プレス工場

本社 壬生

モータのプレス部品の製造を行っています。プレス部品の取り出し、検査、測定は、ロボットにより自動で行います。



ダイカスト工場

本社 壬生

モータのダイカスト部品を製造しています。鋳造から取り出し、堰折り、バリ取りまで、全工程をロボット化しています。



モールド工場

本社 壬生

CNC、サーボモータ、サーボアンプ、ロボットで使用するプラスチック部品を、ロボショットで製造しています。成形の状態は、ネットワーク経由で常時監視、記録されます。



板金工場

本社

ファナックロボットのコントローラのキャビネットを、高度にロボット化された設備により製造しています。



塗装工場

本社 筑波

本社工場ではサーボモータ部品、ロボット部品、筑波工場ではロボット部品の塗装を行っています。塗装、洗浄、マスキングの各工程をロボットで自動化しています。



世界の産業のオートメーションを支える

グローバルサービスネットワーク

ファナックは全世界の280ヶ所以上のサービス拠点から100ヶ国以上のお客様を全力でサポートしています。



ウェブサイトへ



海外拠点

- 北米・中南米**
FANUC America Corporation
- 欧州・中東・アフリカ**
FANUC Europe Corporation, S.A.
FANUC SOUTH AFRICA (PROPRIETARY) LIMITED
- アジア・太平洋**
BEIJING-FANUC Mechatronics CO., LTD. (CNC, Laser)
SHANGHAI-FANUC Robotics CO., LTD. (Robot)
SHANGHAI-FANUC ROBOMACHINE CO., LTD. (Robomachine)
KOREA FANUC CORPORATION
TAIWAN FANUC CORPORATION
FANUC INDIA PRIVATE LIMITED
FANUC THAI LIMITED
FANUC MECHATRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.
PT. FANUC INDONESIA
FANUC SINGAPORE PTE. LTD.
FANUC PHILIPPINES CORPORATION
FANUC VIETNAM COMPANY LIMITED
FANUC OCEANIA PTY. LIMITED

国内サービス拠点

- 日野支社
大阪支店
北海道支店
東北支店
筑波支店
前橋支店
越後支店
白山支店
中国支店
広島支店
九州支店
名古屋サービスセンタ
浦和サービスセンタ
山梨サービスセンタ
横浜サービスセンタ
長野サービスセンタ
浜松サービスセンタ
三河サービスセンタ
富山サービスセンタ
枚方サービスセンタ
小倉サービスセンタ 他

お客様が商品を使用される限り保守を続ける

生涯保守

「生涯保守」はファナック独自の強みの一つです。ファナックでは、470台以上の設備により16,000種以上の修理が可能で、これまでに210万件以上の実績があります。製造中止のものを含め17,000種300万点を超える修理用部品を揃えています。修理実績データは、ノウハウとして世界中の修理部門で活用され、商品開発部門へもフィードバックされています。



高い稼働率の実現を目指すサービス体制

世界中の主要拠点には、サービスコールセンタと保守部品倉庫があり、お客様の高い稼働率の実現に寄与することを目指しています。

コールセンタ

コールセンタではFA商品、ロボット、ロボマシンに精通したベテランのエンジニアがお客様からのお問い合わせや保守依頼に素早く対応しています。



保守部品倉庫

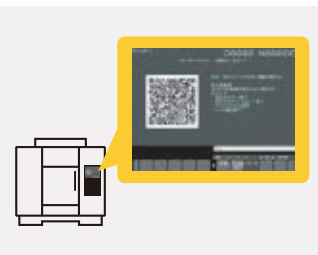
世界中のサービス拠点の倉庫には豊富な保守部品が在庫されています。日野支社と名古屋サービスセンタにあるパーツセンタには、旧機種から最新機種までの保守部品が在庫されており、24時間いつでも出荷できる体制があります。グローバル倉庫には世界各地の倉庫を補完する保守部品を在庫し、世界中のお客様の高い稼働率に貢献しています。



デジタルを活用し、より便利に

FabriQR Contact (ファブリキュア コンタクト)

FabriQR Contactとは、スマートフォンを利用したお問い合わせサービスです。画面に表示された二次元コードをスマートフォンで読み取ると、装置情報やアラーム情報などがファナックのサービスフロントに自動転送されます。ファナックのサービス員がお客様からのコメントと一緒に、装置状況を正確かつすぐに把握することで、問題解決までの時間が短縮されます。



ZDT (ゼロダウンタイム)

ロボットの保守診断機能を統合的に提供するZDTは、予期しないダウンタイムをゼロにする、実用的なIoT商品です。「故障予知」、「トレーサビリティ」、「予防保全」、「システム監視」によりダウンタイムゼロを実現します。また、クラウド、オンプレミス双方の構成をサポートします。



ファナック商品の活用方法を習得できる

ファナックアカデミ

お客様の事業でファナック商品をご活用いただけるよう、ファナックアカデミでは広々とした教室や豊富な実習機材と研修システムを設備して、実習中心の実務ですぐに役立つ研修コースを開催しています。また、隣接する宿泊施設のファナックゲストハウスには、ゆっくり過ごせる宿泊室や大浴場などの施設を備え、充実した研修期間をお過ごしいただけます。



3つの研修コース

アカデミ講習会



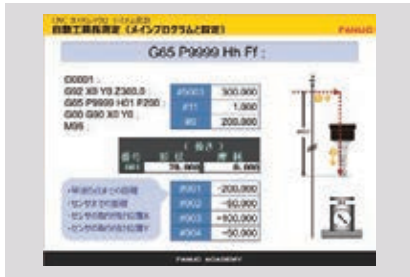
対面式のアカデミ講習会では豊富な実習機を使い、説明の後にすぐに実習を行い、疑問点にはすぐに講師がアドバイスをします。

ライブセミナ



ライブセミナではファナックアカデミに来校されることなしに、自宅や会社で高度な内容の講習を受けることができます。また経験豊富な講師に自由に質問することが可能です。

オンデマンドセミナ



オンデマンドセミナでは、資料や動画を使って好きな時に好きな場所で、高度な技術を習得することができます。

ファナックのサステナビリティ

ファナックは創業以降、一貫して製造業をはじめとする産業のオートメーションを追求しています。不断の技術革新によりお客様の事業の自動化を進め、産業のオートメーションの分野から社会課題、環境課題の解決に貢献することで経済的価値と社会的価値を創造します。

1

カーボンニュートラル実現に向けた
様々な取り組みを推進

温室効果ガス
排出量削減

消費電力の削減

クリーンエネルギー
活用

2

事業活動、商品機能を通じて
お客様のSDGs達成に貢献

2

飢餓を
ゼロに

3

すべての人に
健康と福祉を

4

質の高い教育を
みんなに

7

エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

8

働きがいも
経済成長も

9

産業と技術革新の
基盤をつくろう

12

つくる責任
つかう責任

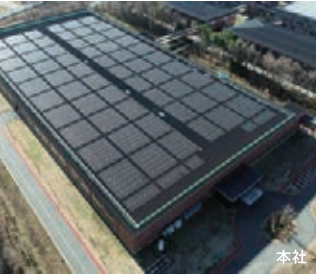
13

気候変動に
具体的な対策を

具体的な取り組み

太陽光設備の導入

現在14.7MWの太陽光発電設備が稼働しており、さらなる導入拡大を検討しています。



本社



壬生工場

グローバル・インダストリー・パートナー として技能五輪国際大会を支援

世界トップの産業用ロボットメーカーであるファナックは、職業教育機関である技能五輪国際大会 (WorldSkills Competition) を2018年から支援しています。



外部イニシアチブへの参画

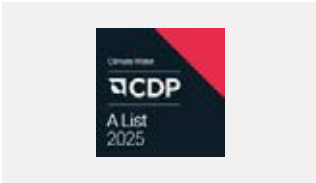


気候変動関連財務情報開示
タスクフォース (TCFD)
2021年12月にTCFDの提言への
賛同を表明しました。



SBTイニシアチブ
2030年までのGHG排出削減目標
についてはSBT (Science Based
Targets) イニシアチブの認定を取
得しています。

外部からの評価



CDP
ファナックはCDP気候変動と水セ
キュリティで最高評価「Aリスト
企業」に選定されています。



MSCI*
2023年より、ファナックはMSCI
ESG格付評価で最高評価AAAを獲
得しています。

*THE USE BY FANUC CORPORATION OF ANY MSCI ESG RESEARCH LLC OR ITS AFFILIATES ("MSCI") DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF FANUC CORPORATION BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS, AND ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.

会社概要

社 名	ファナック株式会社
設 立	1972年5月12日
資本金	690億円
従業員数	10,040名(連結)、4,842名(単体) ※2026年3月31日現在
本社所在地	〒401-0597 山梨県南都留郡忍野村忍草3580
業績(2025年度)	売上 8,578億円
	経常利益 2,275億円
	純利益 1,665億円

役員一覧2026年7月1日時点

代表取締役社長 兼 CEO	山口 賢治	
取締役	流石 柳二	(常務執行役員 兼 CFO、経理・法務・営繕本部長)
	マイケル J. チコ	(ファナックアメリカコーポレーション取締役社長 兼 CEO)
	山崎 直子	(社外)
	魚住 弘人	(社外)
	武田 洋子	(社外)
	岡田 俊哉	(常勤監査等委員)
	横井 秀俊	(監査等委員、社外)
	富田 美栄子	(監査等委員、社外)
	五十島 滋夫	(監査等委員、社外)
専務執行役員	野田 浩	(FA研究開発統括本部長 兼 研究開発推進本部長)
常務執行役員	石邊 知明	(FAセールス本部長)
	安部 健一郎	(ロボット研究開発統括本部長 兼 ロボットアプリケーション技術本部長)
	岩下 平輔	(FA研究開発統括本部ソフトウェア研究開発本部長)
	高次 聡	(ロボマシン研究開発統括本部長 兼 ロボマシンセールス本部長 兼 セールス推進本部長)
	加藤 盛剛	(ロボット研究開発統括本部ロボットソフト研究開発本部長)
執行役員	福田 正幹	(FA研究開発統括本部サーボ研究開発本部長)
	島田 直樹	(ロボットセールス本部長)
	佐々木 康夫	(製造統括本部長 兼 ロボット製造本部長)
	吉田 典道	(サービス本部長)
	篠原 達夫	(製造統括本部電子製造本部長)
特別顧問	稲葉 善治	

組織図2026年7月1日時点



ウェブサイトへ

ファナックの歴史

FANUC 250 [1964]
ファナック最初 CNC



NCタレットパンチプレス [1956]
ファナック最初の NC であり、民間における日本最初の NC の開発に成功



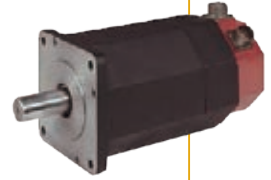
FANUC・DRILL [1972]
NC 工作機械の普及を目指して NC ドリルを開発



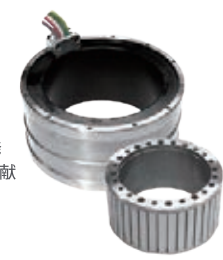
FANUC AUTOSHOT [1984]
世界初の量産型の電動式射出成形機を開発



ACサーボモータ [1982]
AC サーボモータの始まり
ブラシレス化によりメンテナンスフリーを実現



DDモータ [2003]
ファナック最初の DD モータを開発
5 軸加工機の高速度・高精度化に貢献



FS30i/31i/32i [2003]
ハードウェアの構成要素を刷新して開発した、ファナックの最上位機種



ROBOSHOT α-SiB [2021]
業界最大の画面表示装置と独自の 2 画面同時表示機能により優れた操作性を実現



ROBOCUT α-CiC [2021]
機械構造、放電装置、放電制御を一新し、高速、高精度加工性能が飛躍的に向上



1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020

電気パルスモータ [1967]
油圧を使わず電気だけで工作機械を駆動可能なパルスモータ



電気油圧パルスモータ [1959]
ファナックのサーボ技術の原点
NC ビジネスの地位確立に貢献



FANUC TAPE CUT-SERIES A [1975]
NC 工作機械の普及を目指してワイヤカット放電加工機を開発



FANUC ROBOT MODEL 1 [1977]
ファナックのロボット商品第 1 号として開発
円筒座標型、同時 1 軸制御



LR Mate [1992]
工作機械へのワーク着脱ロボット (Loader Robot) がロボット名称の由来



R-2000iA [2000]
旧来のロボットを一新し、2000 年に発売開始されたファナックの代表機種



ROBODRILL α-DiB [2016]
新機構部とサーボタレットを採用した高性能機を投入し、市場を拡げる



CRX-10iA [2019]
安全性、使いやすさ、高信頼性を追求した新協働ロボットシリーズ



FS500i-A [2023]
5 軸制御用ソフトウェアを一新した他、セキュリティ対策の強化など、変化する時代に対応した最新の CNC シリーズ



1955 富士通信機製造株式会社 (現:富士通株式会社) にコントロールの開発プロジェクトチームが発足	1965 西独シーメンス社にパルスモータの製造及び販売のライセンスを供与	1972 富士通ファナック株式会社設立 1974 GETTYS 社と提携、DC サーボモータ開発 1977 サービス子会社 ファナック U.S.A. コーポレーションを設立 1978 貨泉機工社と共同出資により韓国ニューメリック株式会社を設立 サービス子会社 ファナックヨーロッパ S.A. を設立	1982 ファナック株式会社に社名変更 GM との共同出資により米国に GMFanuc Robotics Corporation を設立 1983 東証第一部に上場 1984 富士山麓に本社を移転 1986 台湾ファナック股份有限公司を設立 GE との共同出資により米国に GE Fanuc Automation Corporation を設立	1992 中国機械電子工業部北京機床研究所との共同出資により中国に北京ファナック機電有限公司を設立 ファナック インディア プライベートリミテッドを設立 GMFanuc Robotics を完全子会社化し、FANUC Robotics North America, Inc. および FANUC Robotics Europe S.A. に再編 1997 上海電気集団との共同出資により中国に上海ファナックロボティクス有限公司を設立	2009 GE との合併を解消	2013 欧州子会社を再編し、ファナックヨーロッパコーポレーションを設立 米州子会社を再編し、ファナックアメリカコーポレーションを設立 2016 信頼性評価棟・性能評価棟完成	2020 創業者 名誉会長 工学博士 稲葉清右衛門 逝去 2022 CNC 累計生産台数 500 万台達成 2023 ファナックロボット 累計 100 万台出荷
--	---	--	--	--	--------------------------------------	--	---

